

株式会社エクストランス

X-MON3.12.0-3.12.1

アップデート内容

まえがき

本資料はX-MON3.12.0および3.12.1のアップデート内容資料です。

X-MON3.12.0で新たに追加した機能と、改修された機能並びに

不具合修正内容について記載します。

X-MONの入門リファレンスや監視エージェント導入監視方法などのマニュアルについてはX-MONサポートページにログインしてご確認ください。

また、本資料で紹介した新機能についてのマニュアルもサポートページで公開しています。

<https://x-mon.jp/support/>

※ 3.11.0以前のバージョンからアップデートをされる前に ※

3.12.0では機能追加や不具合修正に付随して既存の設定が変更、削除される機能があります。

[3.アップデート時の注意事項](#)をご確認の上、アップデートを行うようにしてください。

2020年08月

内容

まえがき	1
1 アップデート内容	3
1.1 MIBブラウザ機能追加	3
1.2 ホスト登録コマンドRHEL8対応	5
1.3 既存プラグイン改修	5
1.3.1 HTTPS監視プラグインへSNI指定・SSLバージョン指定の追加	5
1.3.2 WEBストーリー監視機能へ証明書チェック指定の追加	6
1.3.3 TRAFFIC監視プラグインにしきい値の単位指定の追加	6
1.4 監視プラグイン登録機能の改修	8
1.5 グラフチューニング機能改修	8
1.6 X-MON全体設定に設定項目追加	8
1.7 その他	8
2 不具合の修正	9
2.1 監視設定	9
2.2 表示関連	9
2.3 X-MON API	9
3 アップデート時の注意事項	10
3.1 アップデート前	10
3.2 アップデート中	10
3.3 アップデート後	10

1 アップデート内容

X-MON3.12.0では以下の機能が追加・改修されました。

- MIBブラウザ機能
- ホスト登録コマンドRHEL8対応
- 既存プラグイン改修
- 監視プラグイン登録機能の改修
- グラフチューニング機能改修
- X-MON全体設定に設定項目追加

1.1 MIBブラウザ機能追加

The screenshot displays the X-MON MIB browser interface. At the top, it shows the X-MON logo and version 3.12.0, along with a user login status. The main area is titled 'MIBブラウザ' and contains a search bar for 'MIB検索' and '名称/OID検索'. Below the search bar is a table listing MIB objects and their corresponding OID values. The selected object is 'ifHCOutOctets' with the OID '.1.3.6.1.2.1.31.1.1.10'. To the right of the table, there is a detailed view for the selected OID, showing its type as 'COUNTER64', access as 'ReadOnly', and status as 'Current'. Below this, there is a section for 'snmpwalk実行' (snmpwalk execution) with a dropdown menu for 'HOST選択' set to 'WEB_SERVER' and a search button. Underneath, there is a list of services to be registered, with checkboxes for 'ifHCOutOctets.1' and 'ifHCOutOctets.2'.

X-MON本体へ登録されているMIBファイルのOID情報を検索・確認し、監視サービスとして登録できる機能を追加しました。

管理者メニューの「ツール」から「MIBブラウザ」を選択します。

SNMP情報をOID順で一覧表示し、該当するMIBファイルの名前やOID定義の名称、OID自体を検索することができます。

また、検索したOIDを選択することで詳細を確認出来、X-MONに登録したホストのSNMP情報を使用してsnmpwalkコマンドの発行、結果を確認することができます。

X-MONに標準でインストールされているMIBファイル以外(各機器ベンダーから提供されるMIBファイル等)を確認したい場合は、「拡張MIBの登録」ボタンを押し、SNMPTRAP管理よりMIBファイルをアップロードしてください。

ホストに対してsnmpwalkを行った結果から監視として設定したいOIDを選び、監視プラグインを選択することでサービスとして登録することができます。



登録できる監視プラグインはホストに登録されたSNMP情報を元に表示されます。

これにより、任意のOIDを使用した監視が、値を確認しながら登録することができます。

1.2 ホスト登録コマンドRHEL8対応

被監視サーバからのホスト登録コマンドがRHEL(CentOS)8に対応しました。

詳しい登録方法はサポートサイトの「X-MONホスト登録コマンドマニュアル」をご参照ください。

1.3 既存プラグイン改修

1.3.1 HTTPS監視プラグインへSNI指定・SSLバージョン指定の追加

監視設定項目へ「SSLバージョン」が指定できるようになり、より正確な監視が可能になりました。

従来通り自動で判別することも可能です。

サービス監視用コマンド

Webサービス監視

NRPE経由でのHTTPS監視

対象ホスト名またはIPアドレス 127.0.0.1

URLパス 自動

ポート番号

BASIC認証ユーザ名 SSLv2

BASIC認証パスワード SSLv3

タイムアウト(秒) TLSv1

応答時間WARNINGしきい値(秒) TLSv1.1

応答時間CRITICALしきい値(秒) TLSv1.2

NRPEタイムアウト(秒)

SSLバージョン 自動

表示/非表示切り替え

監視テスト実行

通知及びエスケーレーション機能

また、1つのIPアドレスに複数のホストが存在するサーバの監視(SNI設定)に対応しました。

対象プラグイン

- Webサービス監視 > HTTPS監視
- Webサービス監視 > HTTPS IPベースバーチャルホストの監視
- Webサービス監視 > HTTPS ネームベースバーチャルホストの監視
- Webサービス監視 > NRPE経由でのHTTPS監視

1.3.2 WEBストーリー監視機能へ証明書チェック指定の追加

WEBサイト設定へ「証明書エラー検知」を新たに指定できるようになりました。

WEBストーリー監視でSSL証明書に関するエラー(有効期限の有無や独自証明書に関する警告など)を検知するかどうかを指定できます。

WEBサイト設定

HTTP認証

ユーザーエージェント

文字エンコード

証明書エラー検知

対象プラグイン

- Webサービス監視 > WEBストーリー監視

1.3.3 TRAFFIC監視プラグインにしきい値の単位指定の追加

監視設定項目へ「しきい値単位」を新たに指定できるようになりました。

また、しきい値のデフォルト入力値を変更しました。

サービス監視用コマンド

SNMPバージョン	<input type="text" value="2c"/>
SNMPポート番号	<input type="text" value="161"/>
SNMPコミュニティ名	<input type="text" value="public"/>
受信トラフィックOID	<input type="text" value=".1.3.6.1.2.1.2.2.1.10.2"/>
送信トラフィックOID	<input type="text" value=".1.3.6.1.2.1.2.2.1.16.2"/>
受信トラフィックWARNINGしきい値	<input type="text" value="800"/>
送信トラフィックWARNINGしきい値	<input type="text" value="800"/>
受信トラフィックCRITICALしきい値	<input type="text" value="900"/>
送信トラフィックCRITICALしきい値	<input type="text" value="900"/>
しきい値単位	<input type="text" value="Mbits"/>
タイムアウト(秒)	<input type="text" value="10"/>

通知及びエラーメッセージ機能

対象プラグイン

- AWS EC2 > AWS/EC2 受信トラフィック監視
- AWS EC2 > AWS/EC2 送信トラフィック監視
- AWS RDS > AWS/RDS 受信トラフィック監視
- AWS RDS > AWS/RDS 送信トラフィック監視
- Hyper-V監視 > 仮想スイッチ受信量監視
- Hyper-V監視 > 仮想スイッチ送信量監視
- Linux/Unix系リソース監視(SNMPv1,v2対応) > TRAFFIC監視
- Linux/Unix系リソース監視(SNMPv1,v2対応) > TRAFFIC監視(複数インターフェイス合計)
- Linux/Unix系リソース監視(SNMPv3対応) > TRAFFIC監視(認証)
- Linux/Unix系リソース監視(SNMPv3対応) > TRAFFIC監視(認証暗号化)
- Linux/Unix系リソース監視(SNMPv3対応) > TRAFFIC監視(複数インターフェイス合計 認証)
- Linux/Unix系リソース監視(SNMPv3対応) > TRAFFIC監視(複数インターフェイス合計 認証暗号化)
- VMware監視 > VMware物理NIC受信量監視
- VMware監視 > VMware物理NIC送信量監視
- VMware監視 > VMware仮想スイッチ受信量監視
- VMware監視 > VMware仮想スイッチ送信量監視
- Windowsリソース監視 > SNMPによるWindowsTRAFFIC監視

1.4 監視プラグイン登録機能の改修

高度な設定の「監視コマンド一覧」と「監視プラグイン設定」を1つにまとめ、「独自プラグイン管理」に名称を変更しました。

X-MON3.11.0以前と機能に変更はありません。

また、X-MONのサポートサイトで配布しているプラグインを登録する、専用のメニューを追加しました。

配布プラグインの登録方法は、各配布プラグインのインストールマニュアルをご参照ください。

1.5 グラフチューニング機能改修

チェックコマンドごとのデフォルト値設定に、「最大許容間隔」「最大値」「最小値」の項目を追加しました。

登録することで、そのチェックコマンドを使用するすべてのサービスに設定が行えます。

※各サービスのグラフチューニング設定を登録している場合、そのサービスへは適用されません。

サービスのグラフチューニングを初期化することで、デフォルト値設定が適用されます。

1.6 X-MON全体設定に設定項目追加

X-MON本体の監視機能や、通知機能に異常を検知した場合に、障害通知メールを送る設定を追加しました。

X-MONは本体の障害を検知した場合、自動で復旧を行います。

同時に指定されたアドレスへ、障害があった旨をメール通知することができます。

1.7 その他

エスカレーションコマンド `linux_restart` のタイムアウト秒数が指定できるようになりました。

2 不具合の修正

以下の不具合を修正しております。

2.1 監視設定

- Windowsファイル共有空き容量監視で、パスワードに英数字以外の記号を含む場合、監視が正常に動作しない。
- HTTP監視でAWSのS3にホスティングされたサイトが正常に監視できない。
- VMware監視で監視対象のVMホスト名に「%」記号が含まれる場合、監視結果が正常に取得できない。
- Windowsイベントログ警告管理で、特定の日時に取得した警告が削除できない。
- 閲覧者権限ユーザの閲覧対象ホストグループに指定したホストグループが管理画面から削除できてしまう。
- サービス設定一括変更で、引数を持たない監視プラグインを用いたサービスが選択できない。

2.2 表示関連

- Twilio連携設定画面で、Twilioとの通信が正常に行われなかった場合に、画面上に意図しないメッセージが表示される場合がある。
- ユーザ設定の承認待ち情報が存在するX-MONのバックアップをリストアした際、設定の承認待ち件数がマイナス表記となる場合がある。
- 監視メニューのホスト・サービス情報画面のホストグループ表示が開閉できない。

2.3 X-MON API

- X-MONAPIの「hosts.update」で、監視パッケージを指定しても登録が行われない場合がある。
- X-MONAPIの「hosts.get」で、アイコンの名称が正しく取得できない場合がある。

その他軽微な不具合修正を含みます。

3 アップデート時の注意事項

3.1 アップデート前

承認処理の不具合修正のため、承認待ちに登録されているホスト・ホストグループ・ユーザ設定は削除されます。

アップデート前に承認処理を行うようにしてください。

3.2 アップデート中

MIBブラウザ機能に付随して、X-MONに登録されたMIBファイル情報からSNMP情報を取得します。

お客様が独自に登録されたMIBファイルの情報にSNMPに関するエラーが存在する場合、アップデート中にSNMP MIBに関するエラーが出力されます。

エラーメッセージ例

```
No log handling enabled - turning on stderr logging
Cannot find module (HOST-RESOURCES-MIB): At line 0 in (none)
Cannot find module (HOST-RESOURCES-MIB): At line 5
```

アップデート自体に影響はございませんが、エラーが表示された場合は該当のMIBファイルを「SNMP TRAP管理」より再度登録しなおしてください。

エラー内容は「管理者メニュー > ツール > MIBブラウザ」でもご確認いただけます。

3.3 アップデート後

アップデート後にHTTPS監視が「CRITICAL - Cannot make SSL connection.」となる場合、3.12.0で追加されたSNI設定で、より正確に監視が行われるようになった結果の障害の可能性があります。

例えばネットワークインタフェイスが複数あるウェブサーバがありIPアドレスがそれぞれ「10.0.100.1」と「10.0.100.2」が付与されているものとします。

しかし、名前解決を行う設定には「10.0.100.1」のアドレスのみを記載します。

この状態でIPアドレス「10.0.100.2」を指定してHTTPS監視サービスを作成した場合上記の障害となります。

サーバの設定でIPアドレスを2つとも名前解決できるように調整いただくか、名前解決のできるIPアドレスを設定してください。